

神秘なる秘境を訪ねて③

十津川村『玉置神社』『果無集落』

清水 勝

十津川村は奈良県の最南端で和歌山県に接する山深い地形。面積日本一の村で東京二十三区よりも広い。歴史上、十津川郷土として壬申の乱では吉野で拳兵した天武天皇側に付き功績を上げ、南北朝時代には南朝に忠誠を尽くした。大坂夏の陣では徳川方の要請を受け参戦し、免租などの恩恵を得た。幕末期には勤皇の志が買われて京都御所の警護を担当し、その後尊王攘夷を掲げる天誅組に協力したが、政変により天誅組が朝敵となった為に離脱をしている。

一方、十津川村は台風や線状降水帯による大雨で河川氾濫や土砂崩れが発生しやすく、明治二十二年八月の「十津川大水害」では大被害を受け、二千人以上の村人が北海道へ集団移住し、現在の新十津川町の礎となった。

かつては周辺から隔絶された不便な村も、道路が整備され大和八木〜新宮までの日本一長い路線バスもあり、観光で訪れる人で賑わいを見せている。十津川温泉とともに、神気に満ちて天地を結ぶ霊峰玉置山の山頂近くに『玉置神社』がある。境内には樹齢三千年といわれる神大杉をはじめ杉の巨樹が群生している。

役行者によって開かれたといわれる修験道『大峰奥駈道』は、吉野山から大峰山、釈迦ヶ岳等の急峻な大峰山系の稜線を経て玉置山から熊野本宮に至る九十六キロ口である。

もう一つ、高野山と熊野本宮を最短距離で結ぶ約七十キロの『熊野古道小辺路』こへちが通っている。水ヶ峰、伯母子岳、おほこだけ三浦峠、はこなしのけ果無峠と、千メートル級の山越えがある険しい山岳道だ。その果無峠の手前に天空の郷『果無集落』がある。我々は観光用の小型バスを降り「世界遺産石碑」の所から集落に入った。集落は十数軒で小辺路はその家々の軒先を通る。本来は集落の下から石畳の坂道を登り、観音石仏に疲れ切った心身を癒されて果無集落に着くと、味わいが違うだろうと思った。

こうして神秘なる秘境を訪ねての旅は終わった。自然と神を身近に感じる心の旅路であった。